

道徳

対話を通して、課題について多面的・多角的に理解し、生き方について深く考える授業づくり

一つの価値を表面的に理解するのではなく、話合いや対話を通して、他者の考えや異なる立場に触れながら、物事を多面的・多角的に捉え、仲間との練り合いや練り上げによって、見方・考え方を深めていきます。

最後は、自己との対話を通して、自分自身の生き方に関わる問題（自分事）として捉え、深く考える道徳授業を目指します。



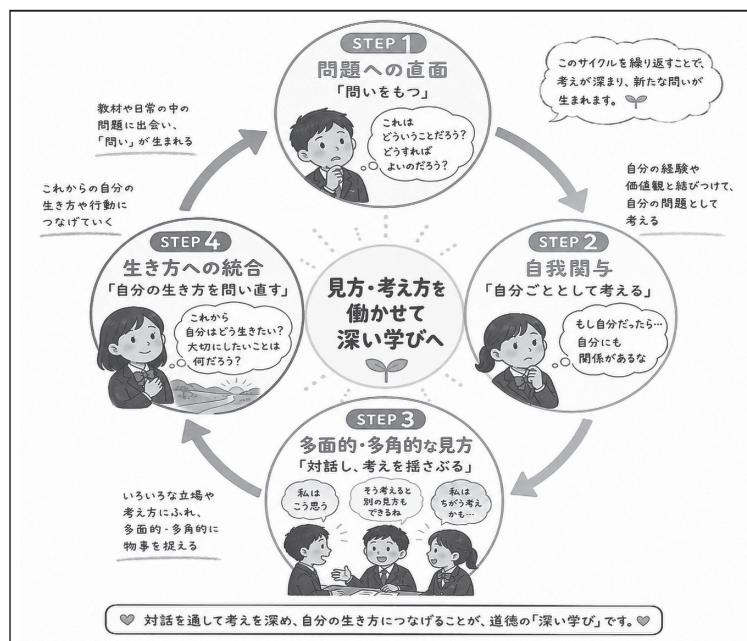
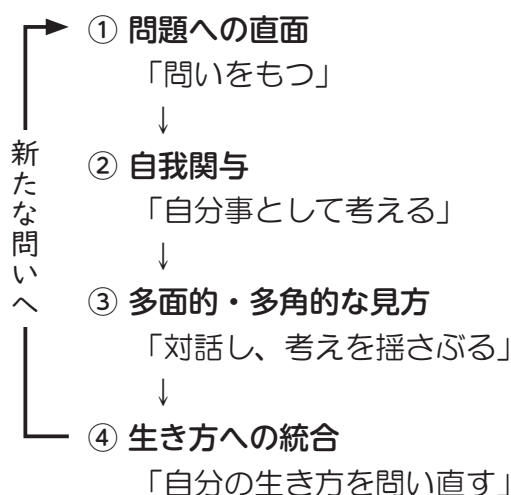
県中教研 道徳部 全県部長
新潟市立東新潟中学校 和泉 哲章

「見方・考え方」を働かせ、深い学びへいたる授業をつくる

道徳において、「見方・考え方」を働かせるということは、道徳的価値について、一面的な見方から離れ、様々な立場や状況、価値との関係から考え、つまり、多面的・多角的に理解し、自分自身との関わりで捉え直すことです。多面的・多角的に理解させるために、話合いや対話を各地区とも重視しています。話合いや対話で大切なことは、他者の意見を

聞くことで自分一人では気付かなかった価値の側面に気付き、自分の考えを問い直すことです。多くの生徒が発言したからといって、多面的・多角的な話合いや対話でできたとは言えません。「見方・考え方」を働かせて深い学びにいたるためには、揺さ振りや発問などによって新たな視点を投入するなど教師に関わりは重要です。

深い学びにいたるプロセス



多面的・多角的思考を促し、深い学びにいたる発問の工夫

生徒による話し合いや対話では、たくさんの意見が出ればよいというわけではなく、一人では気付かなかった価値の側面や様々な立場・視点に気が付き、それらの観点から自分の考えを問い直すことが必要です。生徒自身が、「もう少し詳しく教えて」と「他の意見に対してどう思う」といった「問い返し」をしたり、異なる多様な考えを比較したりできれば、深い学びのつながる話し合いや対話になります。もし、そのような状況が見られなければ、多面的・多角的思考を促すために、教師は、話し合いや対話の進展を見取りながら、効果的に問い返しや揺さぶり、葛藤を生むような発問することが必要です。

そのためには、この教材における多面的・多角的な観点とはどのようなことか、どのような多様な視点から生徒に考えさせたいのか教材研究の段階で具体的に押さえておく必要があります。例えば、「友情は大切」に対して「なぜ友情は大切？」と問うことで価値の根拠を掘り下げることができます。また、同じような意見が続けば「別の見方は？」と問うことによって多様な考えを引き出すことができます。また、「本当にそれでいい？」と問うことによって、価値の揺さぶりになり、自分の考えを問い直すことにつながります。どんな視点で考えさせたいのか、それを発問として準備しておくことが大切です。

深い学びにいたる「深い学びの技法」の活用

設定 深い学びの技法 No.1、3

- 学んだ知識を活用して課題や目標を設定する。
- 視点・観点・論点を設定して思考や表現をする。
- 多様な意見を創出する発問づくり
- 課題解決のために知識や経験を活用し、思考に生かす

解決 深い学びの技法 No.10

- 仲間と練り合いや練り上げをする。
- 対話を通して自分の道徳的価値を問い直し、自分なりに納得解を得る
- 自分の考えを見つめ直し、仲間に考えを生かして考えを深め、仲間と協働的に学んでいく

思考 深い学びの技法 No.7、8

- 視点の転換や逆思考をして考える。
- 異なる多様な考えを比較して考える。
- 効果的な発問によって多面的・多角的思考を促進する
- 対話や議論の場面での「問い返し」による思考の具体化、深化

表現 深い学びの技法 No.15

- 自分の言葉で学んだことを整理しまとめる。
- 振り返りにより生徒自身の学びの意味や深まりを実感する
- 自分の言葉で表現することにより、自我関与を強める

道徳 重点方針

- 1 校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、各校の実態を考慮して、重点目標を設定するなどして、道徳教育の全体計画及び年間指導計画を作成する。
- 2 自分事としての課題になるように、道徳的諸価値の理解を基にして、生徒の考えやこれまでの生き方を確認させるなどの働きかけを工夫する。
- 3 考え、議論させるために、多面的・多角的な視点からの重層的な発問や体験的な学習などを取り入れ、「自分を語る」授業を展開する。
 - ア 登場人物への自我関与中心の学習
 - イ 生きる上で出会う課題に対する問題解決的な学習
 - ウ 道徳的行為に関する体験的な学習

道徳 <上越地区／上越市中教研>

11月10日(火) 研究会開催

研究主題：対話を通して、自分の考えを深め、
よりよい生き方を追求する生徒の育成

題材名：「1年：ちがいについて考えよう」C(11) 公正、
公平、社会正義

「2年：違反摘発」C(10) 遵法精神、公德心

「3年：カーテンの向こう」D(22) よりよく
生きる喜び

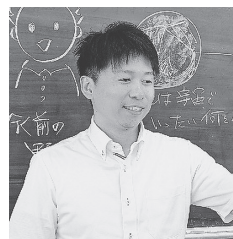
会場校：上越市立名立中学校

公開：3学級

授業者：江端 洋平・夏井 日菜子・山口 達也

指導者：上越教育事務所 学校支援第2課

指導主事 草間 啓 様



研究推進責任者
上越市立城東中学校
佐藤 皓



教科・領域担当者
上越市立名立中学校
夏井 日菜子

「深い学びにいたる授業」を通して、こんな生徒の姿を目指します

活発な対話を通じて価値観を再構築し、道徳的価値に対する自分なりの考えを深めながら、よりよい生き方を追求する生徒の姿を目指します。

主な手立て（「学習過程」と「深い学びの技法」の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（設定の過程→「深い学びの技法」のNo.3）

深い思考を促す「発問づくり」：中心発問は「どんな思い？」「なぜ？」といった抽象的に問うオープンクエスチョンを心がける。

これにより、生徒はより多様な意見を創出することができるようになります。

ポイント2（思考の過程→「深い学びの技法」のNo.7・8）

対話や議論の場面での「問い返し」：「もう少し詳しく教えて」「他の意見に対してはどう思う？」といった問い返しを活用する。

これにより、生徒は自身の思考をより具体化・深化させることができるようになります。

ポイント3（表現の過程→「深い学びの技法」のNo.15）

自分の言葉での「納得解」の表現：終末場面で、主題に対して「私はこう考える」といった自身の納得解を表現する活動を設定する。

これにより、授業での考えの深まりを、より実感し、自身の生き方につなげていくきっかけとすることができます。

単元（題材）の様子

3 学年「カーテンの向こう」の授業では、登場人物の心情理解にとどまらず、「よりよい生き方とは何か」という主題に迫ります。そのために、答えが一つにならない抽象的でオープンな発問を設定し、生徒の思考を深める手立てを講じます。

これにより、生徒は教材を自分事として捉え、多様な意見が交錯する活発な対話を通して自身の生き方を深く省察する姿が期待できます。

ポイント 1

2 学年「違反摘発」の授業では、「ルールやきまりは常に守られるべきものなのか」「その意義とは何なのか」といった問いに対し、多様な視点から議論を交わします。その中で教師は、効果的な「問い返し」を活用し、生徒の考えをより具体化させたり、他の意見と比較させたりする手立てを講じます。

これにより、生徒が自身の思考を揺さぶられながら、より多面的・多角的な視点から考えを深めていく姿が期待できます。



ポイント 2

1 学年「ちがいについて考えよう」の授業では、授業での学びや気づきを今後の実生活にどう生かすかという視点で、終末場面における振り返りを行います。手立てとして、主題に迫る問いに対して自分自身の「納得解」を自分の言葉で言語化させ、思考を可視化・再構築させます。

これにより、生徒が学びを自分事として深く捉え直し、単なるその場の理解にとどまらず、今後の行動やよりよい生き方に主体的に結び付けていく姿が期待できます。



ポイント 3

研究会

本研究会では、1～3 学年の全学級にて研究授業を公開いたします。取り扱う題材や内容項目は多岐にわたりますが、どのような授業であっても「生徒同士」「生徒と教師」の対話を基盤とし、思考を深めていく授業デザインの可能性を研究成果として提示いたします。

生徒も教師も多様な意見に出会う楽しさを感じながら授業に取り組む様子をご覧ください。



ポイント 1・2・3

道徳 <中越地区／長岡市・三島郡中教研>

10月30日(金) 研究会開催

研究主題：道徳的諸価値についての対話を通して、自分を『語る』授業

題材名：「2年：松葉づえ」B(8) 友情、信頼

会場校：長岡市立北辰中学校

公開：1学級

授業者：北山 舜

指導者：中越教育事務所

指導主事 本間 陽子 様



研究推進責任者
長岡市立三島中学校

山口 和希



教科・領域担当者
長岡市立北辰中学校

北山 舜

「深い学びにいたる授業」を通して、こんな生徒の姿を目指します

道徳的諸価値について、他者との対話を手掛かりとして、自己との関わりを問い直し、よりよく生きるために必要な道徳的諸価値について再考し、理解を深めます。教材を通して、様々な人の気持ちが複合的に絡んだ諸事情の背景にある道徳的諸価値の多面性に注目させることにより、様々な角度から総合的に考察することの大切さに気付く、他者と共にいかによりよく生きるかについて考える生徒の姿を目指します。

主な手立て（「学習過程」と「深い学びの技法」の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（設定の過程→「深い学びの技法」のNo.7・8）

視点の転換や逆思考をして考える。
異なる多様な考えを比較して考える。

効果的な発問や問い返しを用いて、広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする心や論理的・批判的に考える姿勢が必要であることに気付かせます。

ポイント2（思考の過程→「深い学びの技法」のNo.10）

仲間と練り合いや練り上げをする。

生徒が道徳的諸価値についての対話を通して自分の道徳的価値観を再構築し、自分なりの納得解を導き出せるようになります。

ポイント3（表現の過程→「深い学びの技法」のNo.10・15）

学習成果と自己との関わりを振り返る。

対話で得た他者の道徳的諸価値にも目を向け、今後の生活への道徳的実践意欲や決意に昇華できるように振り返る時間を設定します。

単元（題材）について

本題材は、事故によるハンデをもつ転校生との関わりを通して、表面的な親切心に潜む「自己満足」や「優越感」に気付き、友達との関係について深く考えさせられる題材です。主人公らの姿勢と、対等な立場で接する伊藤君の姿を対比させることで、「本当の友達とはどのような関係なのだろう」というテーマに迫ります。

「助けてあげる・もらう」という上下関係を超越、状況や立場が変わっても互いを尊重し合える対等な「友達」について深く考える生徒の姿を目指します。

単元（題材）の様子

教材に対して「多面的・多角的」な視点をもって授業準備を行います。生徒の生活体験だけでは意図する「多面的・多角的」な視点にたどり着かず、複数での話し合いに終始してしまうことがあるからです。

これにより、必要に応じて生徒が気付かないような新しい視点をもてるようになり、生徒の「見方・考え方」が広がります。

ポイント1

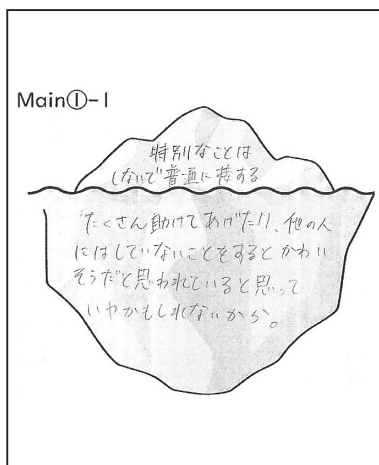
「多面的・多角的」な視点例

- 様々な登場人物の立場
 - ・ 転校生に接する「主人公らの姿勢」と「伊藤君の姿勢」
 - ・ 転校生から見た視点
 - 「友達」の捉え方
 - ・ 「助けてあげる」存在
 - ・ 自分と「対等」な存在
- など

ポイント2

ワークシートには氷山モデルを効果的に用いて生徒が自分の道徳的諸価値を言語化できるようにします。

これにより、単なる生活体験の話し合いだけでなく、道徳的諸価値についての対話ができるようになります。



ポイント3

ワークシートの振り返りの欄を、「授業前、授業を受けて、これから」に分けて記入する欄を設定します。

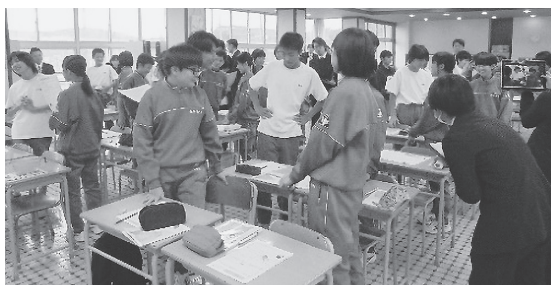
これにより、授業や対話を通して自身の考えが変容したかどうかを可視化し、道徳的価値観を形成していく姿を目指します。

研究会

ポイント1・2・3

「松葉づえ」を題材に、2年生の授業公開を予定しています。

本教材は、交通事故で足をケガしている転校生との関わりや松葉づえをめぐる出来事を通して、上下関係ではない対等な「友達」との関係について考え、生徒たちが望ましい人間関係を構築していこうとする姿をご覧ください。



研究会当日は、授業で実践されたポイント1・2・3が、「深い学び」にいたるための有効な手立てだったのかを協議する予定です。

道徳 <新潟地区／新潟市中教研>

11月12日(木) 研究会開催

研究主題：豊かなかかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成

単元名：「2年：なんだろう なんだろう～『ゆるす』ってなんだろう～」B(9) 相互理解、寛容
「3年：ぼくのお話 あなたの物語」「あつてはならない違い」C(11) 公正、公平、社会主義
「3年：なんだろう なんだろう～『自律』ってなんだろう～」A(1) 自主、自律、自由と責任

会場校：新潟市立小須戸中学校

公開：3学級

授業者：金安 雅夫・清水 丈瑠・関山 広夢

指導者：新潟市立総合教育センター

指導主事 河原 久美子 様



研究推進責任者
新潟市立新津第一中学校
馬場 徳子



教科・領域担当者
新潟市立小須戸中学校
関山 広夢

「深い学びにいたる授業」を通して、こんな生徒の姿を目指します

2時間授業の2時間目の授業を公開します。1時間目で生徒から生まれた問いについて学級全体での対話形式の意見交換(P4C)を行い、自分の考えを多角的・多面的に捉え直し、道徳的価値について深める姿を目指します。

主な手立て(「学習過程」と「深い学びの技法」の関連)

生徒の学習過程



ポイント1(設定の過程→「深い学びの技法」のNo.1)

学んだ知識を活用して課題や目標を設定する。

これにより、生徒は道徳的価値を見出し、課題解決に向けて経験や知識を活用して思考するようになります。

ポイント2(思考の過程→「深い学びの技法」のNo.8)

異なる多様な考えを比較して考える。

P4Cによる対話形式で、他者の考えや異なる立場の考えに触れることにより、生徒は多面的・多角的な視点から自らの考えを問い直し、見方・考え方を深めていきます。

ポイント3(表現の過程→「深い学びの技法」のNo.15)

自分の言葉で学んだことを整理してまとめる。

生徒は対話を通して深まった見方・考え方で、自分を見つめ直し、自分事として落とし込んでいきます。

単元（題材）の様子

本教材は、日常的な言葉について問い直す内容になっています。1時間目では学習した内容をもとに、自分たちで疑問に思ったことから、もっと掘り下げて考えたいことや、自分たちでもっと深めていきたいテーマを出していきます。そうすることで自身の経験や価値観をもとに考えを形成し、自分なりの答えを探究するきっかけになります。

ポイント1



前時で出し合ったテーマから、できるだけ視点が違うものを4つ程度に絞り、本時で掘り下げていくテーマを一つに絞ります。「許せないことがあってもよいのだろうか」（昨年度のテーマ）について、自分の経験や価値観をベースに円座になり対話していきます。その時、「セーフティー」（対話のルール）を示します。

これにより、生徒が安心して聞いた
り話したりする土台ができます。

ポイント2

対話のルール

- ① ボールを持っている人だけが話せる。
- ② まだ話をしていない人にボールを回す。
- ③ 話さないときはパスができる。
- ④ 相手を傷つける言葉は言わない。

教師はコーディネーターとして円座の輪と一緒に入り、生徒の発言に注目させたり、新たな問いを提示したりしながら、対話形式で行います。自分の考えと比較し、多面的・多角的（自分と相手のために許すことでの違い、許すことと我慢することの違い、許さないことは悪いことかなど）に考えていきます。



ポイント2

最後に、対話で生まれた意見を活用しながら、本時のテーマについて自分の考えを表現します。様々な立場からの意見を受け入れながら、自分の考えを再構築します。

ポイント3

研究会

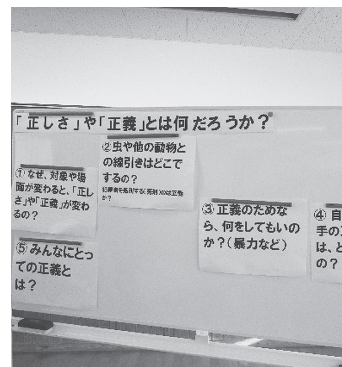
研究会当日の授業では、生徒が自分たちで考えたい

テーマを決めて、対話する様子を公開します。

問いに対する自分の考えをもち、対話の中で、他者の意見や異なる立場に触れながら、多面的・多角的な視点から、自分の考えを問い直し、自分の考えを再構築していく姿をご覧ください。



ポイント1・2・3



道徳 <下越地区／佐渡市中教研>

11月13日(金) 研究会開催

研究主題：異なる多様な考えを理解し、
深い学びに向かう生徒の育成

題 材 名：「3年：臓器提供」D (19) 生命の尊さ

会 場 校：佐渡市立南佐渡中学校

公 開：1 学級

授 業 者：多川 恵

指 導 者：下越教育事務所 学校支援第2課

指導主事 北川 禎 様



研究推進責任者
佐渡市立高千中学校

市橋 由希絵



教科・領域担当者
佐渡市立南佐渡中学校

多川 恵

こんな深い学びの姿を目指します

臓器提供をめぐる様々な心情との葛藤を踏まえ、生徒がそれぞれの立場に立って多様な意見交換をする姿を目指します。また、対話の一つの手法である「等話」の視点で話し合いを進め、ルールを守り、話す時間を平等にすることを意識します。生徒たち自ら安心して意見を出すことができる雰囲気を作り、相手を尊重した話し合いをすることを通して、自分の考えを深め、かけがえのない命の連続性や有限性なども含めて理解し、生命を尊重する道徳的心情を育てます。

主な手立て（「学習過程」と「深い学びの技法」の関連）

生徒の学習過程



ポイント1（設定の過程→「深い学びの技法」のNo.3）

視点・観点・論点を設定して思考や表現をする。

視点や論点を明確にして思考・表現を進めます。多様な立場や角度から対象を捉え直すとともに、他者の考えを取り入れながら、多面的・多角的な見方・考え方を広げていきます。

ポイント2（思考の過程→「深い学びの技法」のNo.8・10）

異なる多様な考えを比較して考える。仲間と練り合いや練り上げをする。

生徒は視点を変えて考えを深めます。多様な意見を交流しながら、自分の意見を見つめ直したり仲間の意見を組み合わせたりして、仲間と協働的に学んでいきます。

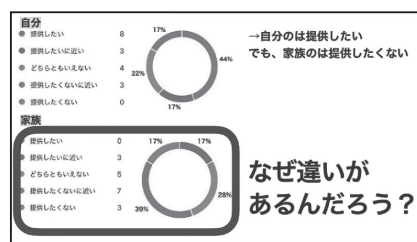
ポイント3（表現の過程→「深い学びの技法」のNo.15）

自分の言葉で学んだことを整理しまとめる。

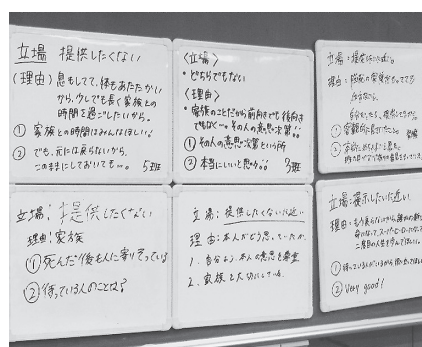
生徒は学んだことを自らの言葉で振り返りに記入し、深まった考えを自らの中に落とし込んで整理します。様々な視点や気付きと自身の思考を重ね合わせるプロセスを経ることで、生徒自身が学びの意味や深まりを実感できるよう促します。

単元（題材）の様子

多様な立場や視点に立って考えられる課題の設定を工夫します。「臓器の提供者としての視点」や「移植の待機者としての視点」から臓器提供を考える中で、自分事としての実感を伴いながら思考を深めさせます。「提供者」と「待機者」の視点の転換により、生徒は葛藤や複雑な心情に寄り添いながら、他者の立場を共感的に理解しようとする力や、多面的・多角的に考える力を発揮し、課題へアプローチできるようになります。



ポイント1



ポイント2

個の思考を基盤とし、「等話」の視点を大切にすることで、生徒が安心して本音を語り合える対話の土台を築きます。展開場面では、ICTを活用して多様な意見を可視化することで、互いの異なる立場や価値観に気付き、比較しながら考える場を設定します。

こうした可視化をきっかけに友人との「練り合い・練り上げ」を活性化させ、生徒は視点を変えて自らの考えを深く見つめ直すとともに、仲間の意見を柔軟に取り入れながら対話を通して協働的に学びを深める力を発揮し、学びを深めていきます。

生徒は自らの言葉で振り返りを記入し、学んだことや深まった考えを自分の中に落とし込んで整理します。様々な視点や問いかけを通して捉え直すプロセスを経ることで、他者の捉え方や新たな気付きと自身の思考を重ね合わせ、より多面的・多角的に考えを深めていくことができます。

これらの活動を通して、生徒自身が自らの学びを俯瞰し、その意味や価値を捉え直すメタ認知的な力を発揮しながら、学びの意味や変容などの深まりを実感できるよう促していきます。



ポイント3

研究会

研究会当日は、臓器提供をする側、受ける側の立場にたって自分ならどうするか、他者はどのように考えているのかを比較しながら「かけがえのない生命」について考えていく活動を中心に授業を行います。

それぞれの立場から臓器提供について考え、他者との意見を比較していくことで、命の連続性や有限性についての深い学びに繋げていきます。

授業後の全体会では、中心発問や振り返りの発問を中心とした話し合いを行う予定です。



ポイント1・2・3